

Vote: Opp

Score:

PM:75 DPM:75 GW:73 Gov Reply 38  
LO:74 DLO:76 OW:76 Opp Reply 37.5 margin 2.5

概して本大会では平均的なスコアのつくラウンドだったと考えます。

全体として、大きく差が付いたラウンドではないと判断しました。双方とも説明が浅く、ジャッジ任せなアーギュメントが多かったと思います。

voteはどちらに傾いてもおかしくはないと考えましたが、最終的にはGovが自分の提示していた問題を解決していなかったことを重く捉え、Oppにvoteしました。

詳しく説明すると、

<SQのproblemに関して>

Govが提示していたproblemはteacherのモチベーションが低く子供に最適な教育を行えていないというものでしたが、結論として、problemは存在しそうではあるが、かなり弱められていたと判断しました。

#### 1. 分析の深さ

主にPMからしか説明されておらず分析が浅かったように感じられました。PMはモチベーションが低い理由として、競争が存在しないため職が安定していること、昇進が少ないことを主に述べていました。しかし、これらのアーギュメントが生徒に対する教育の質の低下というところに強かに結び付けられていないと考え、やや説得性に欠けると判断しました。また後述するようにOPPからもエンゲージされていました。

#### 2. Oppからのエンゲージメント

Oppからこの点に関して来ていたエンゲージメントは、そもそも教師は子供を教えるのが好きだからモチベーションは高いという議論でした。競争の不足などの職場環境への直接的なレスポンスはなかったものの、教師のcharacterizationに関してはGovの前提をある程度崩す分析ができていたと判断しました。このレスポンスはLO、DLOを中心にOppチームが一貫して主張されていたのに対し、GovはPMのPOIのstable jobであるという反論以外は有効なレスポンスが無く、エンゲージする機会があったにもかかわらずそれを行わなかったのはGovの主張を弱める理由になりうると判断しました。

DPMのhierarchyの話はモーションとの関連性が薄く、かつ昇進させる必要性を示しきれていなかったのに加え、DLOとOWhipのレスポンスによって大きく弱められていたため今回はvoteの考慮の対象にはなりませんでした。

<APのstudentへのimpactに関して>

Govは教育の質向上、Oppは成績の悪い生徒の切り捨て、スポーツ・芸術科目に秀でた生徒が才能を伸ばせないという話でしたが、分析の深さでOppのharmがやや上回ると判断し

ました。

### 1. 教育の質は上がるか (Govのbenefit)

Govの主張はプラン後は教師間で競争が生まれ、教師が評価されることにより成績の悪い生徒がcatch upできるようになるというものでしたが、PMのスピーチの最後に少し説明があっただけで、なぜモチベーションが上がるのか、具体的にどのような教育が行われるのかに関するAPの説明が不十分であったと判断しました。

### 2. 成績の悪い生徒の切り捨て (Oppのharm)

教師が全体の学力向上を目指すために、教えるににくい成績の悪い生徒を切り捨てるという話は、LOからOWhipまで一貫して深められていました。このポイントに対してDPMから教師は成績の悪い生徒も教えるincentiveがあるというレスポンスが来ていましたが、Oppベンチ全体から一番成績の悪い生徒よりやや成績の悪い生徒の方が教えやすいというレスポンスが来ていたことと、Govの教師に関するcharacterizationがcontradictionであるという指摘があったことから、Govからのレスポンスは不十分であり、切り捨てのharmはやや残ると判断しました。

### 3. スポーツ・芸術科目に秀でた生徒に関して (Oppのharm)

主にDLOが主張していた議論で、どこまで学業に集中させられることがburdenなのかがやや説明不足でしたがGWhipからの有効なレスポンスも無く、強くは評価できないものの、Oppのcaseを支える主張としてある程度評価できると判断しました。

結局、このプロポーザルが教師のインセンティブに影響することはコンセンサスになっていたように感じましたが (OPPのAPのハームもこの点がないとたたない)、問題はガバのAPに関しての説明がほぼなく、具体的にどのような良い影響があるのか分からなかったのがOPPにVOTEした大きな理由です。